

# 安全報告書

2008



横浜新都市交通株式会社

## 1 利用者はじめ地元の皆さまへ

シーサイドラインをご利用頂き、誠に有難うございます。

安全の確保を第一に掲げ、法令遵守とともに安全・安定輸送の提供に努めております。

本報告書は、輸送の安全確保のための取組みや安全の実態について、皆さまに広くご理解いただくために作成しました。お客様からの声を輸送の安全に役立てたく、是非、積極的なご意見、ご助言を頂戴できれば幸いです。今後とも、ご愛顧とご支援を賜りますようお願いいたします。

横浜新都市交通株式会社 代表取締役社長 太田浩雄

## 2 輸送の安全を確保するための基本的な方針

下記項目を掲げ、社員全員に周知・徹底しております。

- ①安全の確保は輸送の生命である。
- ②規程の遵守は安全の基礎である。
- ③執務の厳正は安全の要件である。
- ④事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとる。
- ⑤情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保する。
- ⑥常に問題意識を持ち、必要な変革に果敢に挑戦する。

## 3 事故等の発生状況

### (1) 鉄道運転事故

2007年度は、鉄道運転事故の発生はありませんでした。

### (2) 輸送障害(30分以上の遅延や運休)

2007年度の輸送障害は2件発生しました。

輸送障害 9月6日 台風9号接近により運転を見合わせました。

9月7日 海の公園柴口～八景島駅上り線で架線故障により運転を見合わせました。

### (3) インシデント(事故の兆候)

2007年度、国土交通省へのインシデントの報告はありませんでした。

## 4 輸送の安全確保のための取組み

### (1) 安全確保のための設備

#### ○ATC 装置(Automatic Train Control・自動列車制御装置)

列車の運転は、駅間を幾つかの区間で分けし、カーブ等の軌条の諸条件によりそれぞれの速度を定めています。列車が制限速度を超えた場合、ブレーキを動作させ減速させるのがこの装置です。また常に列車の追跡監視を行い、先行列車に接近した場合など、この装置によりブレーキが動作し、停止させるなど安全な運行を確保します。

#### ○ATO 装置(Automatic Train Operation・自動列車運転装置)

シーサイドラインは無人運転を行っており、ATO 装置はいわば運転士の役目を担っています。

ATO 装置には、地上設備との信号の送受信をしている駅 ATO 装置と、車両に搭載して列車を自動運転する車上 ATO 装置があります。車上 ATO 装置では、走行中の路線のデータが全て記憶されており、この記憶データやATC信号、車両の状況により目標速度を定め走行します。また、駅に停止させるのは、走行装置から実際の走行距離データを検出し、次の駅までの距離を走行したら、自動で停止するように制御しています。なお、この距離データを、より正確に算出するために、駅手前の地点に距離補正アンテナを設置し、誤差を修正し正確に列車を停止させます。

#### ○ホームドア

全駅のホームには旅客の転落事故を防ぐため、ホームドアを設けて安全を確保しております。また万一下に挟まりそうになると、ドア先端のセンサーにより再度ドアが開き、挟み込みを防いでいます。

この他、列車無線、非常列車停止装置、インターホン、監視モニターによりお客様の安全確保に努めております。

#### ○地震計

並木中央管理棟(司令区)に設置しており、常時、監視できるシステムとなっております。

震度4で全列車に係員を派遣、速度規制を実施し運転を再開いたします。

震度5で車両・施設の安全確認が終了するまで運転を見合わせます。

## ○風速計

全線2箇所を設置しており、常時、司令区にて監視できるシステムとなっております。

風速20m 列車に係員を添乗させ、警戒にあたさせます。

風速25m 状況により運転の継続が危険と認められたときは、一時、運転を見合わせます。

## (2)教育訓練

各職場毎に毎月職場内訓練を実施し、安全輸送に役立つよう、テーマを決めて教育を行っています。

## (3)AED(自動体外式除細動器)の導入

2006年8月8日(火)より有人の3駅(新杉田駅・並木中央駅・金沢八景駅)にAED(自動体外式除細動器)を導入し、本年度も社員に対する救命講習の受講を実施しました。



## (4)異常時対応訓練

運転事故や災害を想定して訓練を実施いたしました。本年度も引き続き、事故を想定した訓練や災害等を想定した防災訓練を実施し、安全に努めてまいります。



(5) 軌道事故防止対策委員会

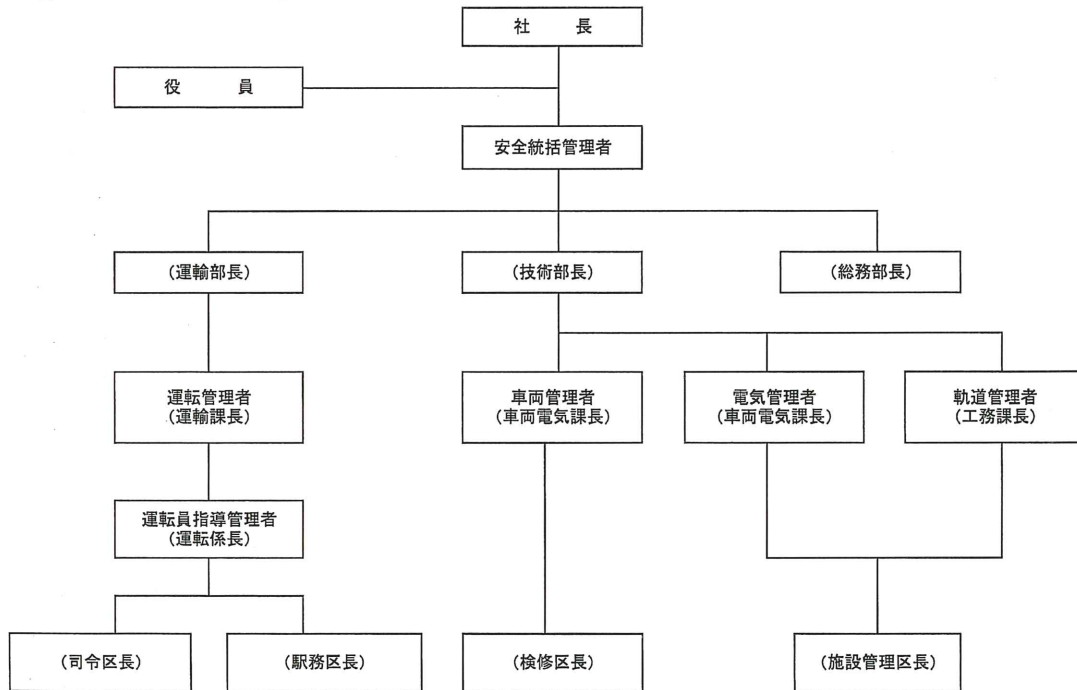
当委員会は平成14年度に設立し、安全対策および安全に関する全ての事項につき、原因を究明しその対策を立て、事故防止を図っております。

また、実際に発生した事故の検証だけではなく、事故等が発生するおそれのある「ヒヤリハット」情報を収集し、原因、背後要因等を分析し、「事故の芽」を事前に摘みとる取り組みを行っております。

## 5 安全管理体制

社長をトップとする安全管理組織を構築し、各責任者の責務を明確にしています。

【安全管理体制図】



役 職	役 割
社 長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括管理する。
運転管理者	安全統括管理者の指揮の下、列車の運行、運転士の資質の保持その他運転に関する業務を管理する。
乗務員指導管理者	運転管理者の指揮の下、運転士の資質の保持に関する事項を管理する。

## 6 お客様からのご要望に答えて

- 夏場のホームの暑さ対策として、ホームの両端にルーバーを設置し、風通しを良くしました。



- 車内の冷房が効きすぎて寒いとのご要望により、平成19年9月1日より2号車に『弱冷房車』を設定しました。



車内『弱冷房車』表示

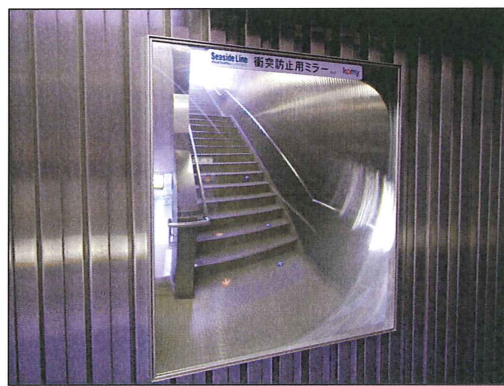


ホーム『弱冷房車』表示

- 階段での昇り降りの際、通行が危険とのご意見をいただき、全駅に通行表示および踊り場に衝突危険防止ミラーを設置しました。



通行表示



衝突危険防止ミラー

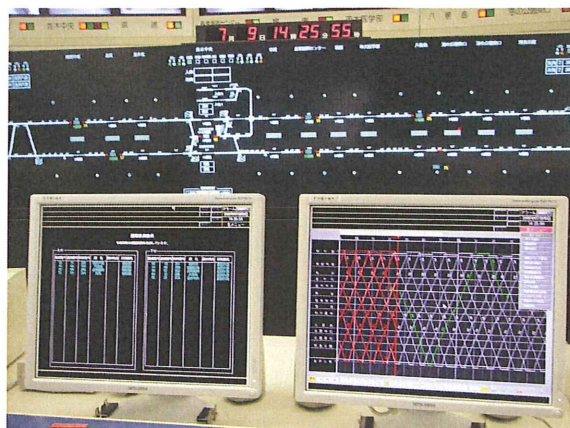
## 7 安全対策

### (1) 運行管理システムの更新

平成元年の開業時から稼働してきた運行管理システムは、更新の時期を迎え、約2年間の工期を経て平成19年9月28日に工事が完了しました。

操作性および視認性を向上させるとともに、従来より保安を向上させるため、システムを二重化して信頼性の高いシステム構築を図りました。

操作端末(手前)および  
運行表示盤



軌道事業に関する設備の老朽化等により、計画的に更新を行っております。

平成19年度の軌道事業設備投資額 483,634 千円の内、安全関連設備へ 240,448 千円を投資しております。

## 8 お客様へのお願い

### (1) 輸送の安全確保について

不審物を発見されたら、触らずにお近くのインターホンまたは駅係員にお知らせください。

### (2) 優先車両の設定について

シーサイドラインは平成20年4月1日より優先車両を設定しました。

2・4号車におきましては全席優先席とし、携帯電話の電源はお切り下さい。

また、1・3・5号車はマナーモードに設定のうえ通話をご遠慮下さい。

### (3) 駆け込み乗車はご遠慮下さい

発車間際の駆け込み乗車は、大変危険です。無理なご乗車はせず、次の電車をご利用下さい。

(4)ベビーカーご利用について

エスカレーターご利用時は折りたたんでご使用ください。

電車内では他のお客様へのご配慮をお願いいたします。特に混雑時はドア付近に置いて出入口をふさがないようにお願いいたします。

ベビーカーはお客様の責任でご使用をお願いいたします。

## 9 ご連絡先

安全報告書へのご感想、当社の安全への取組みに対するご意見をお寄せください。

運輸課お客様サービス係:TEL 045-787-7014

E-mail : [unyu@seasideline.co.jp](mailto:unyu@seasideline.co.jp)

総務課:TEL 045-787-7002

E-mail : [soumu@seasideline.co.jp](mailto:soumu@seasideline.co.jp)

■月～金 9:00～17:20